

第2回 国立循環器病研究センター建替整備構想検討委員会議事概要

議題1（移転誘致を表明した自治体による説明）

1. 吹田市

①資料に基づき説明

②質疑応答

（委員） 東側の用途は決まっているのか。

（吹田市） センターが移転した場合のセンターの事業用地との位置づけである。

（委員） 市民病院の移転は、センターの移転が前提か。吹田市の医療イノベーションに関する施策はどのようなものがあるか。

（吹田市） 市民病院は、改築の時期が来ており、医師のスキルアップにも繋がるので、センターの移転決定があれば必ず移転する。高度医療やトランスレーション・リサーチは、センターが行い、センターが目指す複合医療産業拠点の形成に向けて、市民病院との連携など吹田市としても積極的に協力していく。

（委員） 吹田市内にある万博の跡地は、緑が多く、非常にいい場所。吹田として、東部拠点以外に推薦するところはないのか。

（吹田市） 南側は、大阪府が公募して三井不動産が応募したプロジェクトが決まっており、「ガンバ」のスタジアムも建設される予定。西側は、斜面地で、真ん中に25万キロボルトの送電線が通っている。昭和47年当時、厚生省が調査をしたが、ヘリコプターが飛ぶのも難しく病院立地として不適當と判断されている。吹田市として、お勧めできる土地ではない。その他の吹田市内の土地についても、地価が高いこともあり、お勧めできる土地はないと考えている。緑については、できるだけ緑を豊かにする方針で、専門家の先生の意見も聞きながら考えていきたい。

（委員） 土地として、操車場の跡が国立循環器研究センターとしていいのか。吹

田としては東部拠点しか推薦しない点が引っかかる。

(委員) いま指摘された環境問題は私も引っかかっている。国立循環器病研究センターは日本で唯一のナショナルセンターであり、地域の問題というよりは日本の問題、あるいは世界に対抗するという点で、最高のレベルのアカデミアや医療機関、研究機関といかに連携が取れるかということが一番大事。市民病院のスキルアップにつながるような提携ではだめで、京都大学とか大阪大学というアカデミアとの連携をいかにするかということをも最大限考えている。そして、なおかつ環境。国の顔であり、そういうことも考える必要がある。

(吹田市) 吹田市には、高度医療病院を含め 14 の病院があり、地域住民に提供していく医療を考えると、レベルと機能の役割分担が必要だという趣旨で、ご理解賜りたい。

(委員) 吹田市全体を見れば、医療イノベーションのリソースがたくさんある。そういったものを活用した中に国立循環器病研究センターの移転があるという説明であれば、腑に落ちたが、「何も無い造成地の中にまず国立循環器病研究センターが来てください。」というように聞こえた。

(委員長) 吹田市内である現地建て替えに関しては、どういう意見か。

(吹田市) 国と国立循環器病研究センターが 8 条件を出している中で、現地建て替えよりも、東部拠点の方がふさわしいと考えている。これからどうするかということについては、吹田市から「国立循環器病研究センターをこんな形で建ててください」ということを申し上げるわけにいかないため、今日は都市再生機構、URにもお見えいただいているが、これから共にやらせていただきたいというのが私たちの説明の意図するところである。今日は条件に合うかたちをプレゼンさせていただいていることを、ご理解いただけるとありがたい。

2. 茨木市

①資料に基づき説明

②質疑応答

- (委員) 彩都西駅までも結構アクセスに時間がかかる。今回の提示場所は駅前ではなくて、歩いて13分の距離ということか。
- (茨木市) 現在のところ交通手段は特段ないが、バス事業者への働きかけも、当然考えていきたい。ただし、駅前にはタクシーが駐車している。新大阪駅からのアクセスは、彩都西駅まで乗り換え時間を除いて約30分。
- (委員長) 国立循環器病研究センターは救急車の受け入れ施設だが、道路網はどうか。
- (茨木市) 道路網は整備されている。吹田インター、茨木インターから、それぞれ15分程度でアクセスできる。アクセス道路ができており、阪大病院からは非常に近い。
- (委員) 周辺の医療機関はどういうものがあるのか。
- (茨木市) 区域内は病院が2軒。
- (委員長) 用地はフラットなものか。
- (茨木市) 5割強が平場で、残りが傾斜地。11万平米の床面積を確保するというセンターの条件は、この土地で可能だと考えている。
- (委員) 研究所の立地としては何とかいけるのかもしれないが、患者や多数の医師や看護師もいるわけで、将来アクセスが良くなる可能性はあるのか。モノレールの延伸を含め、街の発展の見通しはどうか。
- (茨木市) モノレールは、中部、東部を結んでいく手段として位置づけられている。現在はまだ空き地が多くあるが、住宅地が広がってくるというイメージを持っていただければと考えている。

(委員長) 神戸のポートアイランドのような一大サイエンスエリアになると期待していたが、全く止まっている。そこへセンターを誘致するというが、本当に大丈夫か、危惧する。

(茨木市) 企業を立地できる場所はライフサイエンスパークがメインになっていて、神戸と比べると若干規模が小さいというイメージは持たれるかもしれないが、いまご紹介しているエリアが茨木の端で、さらに箕面のほうにも製薬会社が持っている土地などが広がっている。若干遅れているが、今後発展していくものと、期待している。

3. 箕面市

①資料に基づき説明

②質疑応答

(委員長) 実際に建物がいっぱいある。さっきの組み替えによる区画整理は、どのぐらいかかるのか。

(箕面市) 建物の撤去については、船場団地組合の一括発注なので、やりかけたら3~4カ月でつぶせる。

(委員長) もともとつぶす計画はなかったのか。

(箕面市) もともとまちの更新期を迎えていたので、実はつぶして何かを誘致することを計画していた。その中でご照会いただいたので、ぜひ検討いただきたいということである。

(委員) 地権者がたくさんいる。普通だったら、そういう方との交渉に結構時間がかかるがどうか。

(組合) 箕面市が10年ぐらい前にかなり広いところをやった。ノウハウを持っているから大丈夫。

- (箕面市) 各地権者も、基本的には船場繊維卸商団地組合の会員。卸商団地が中心になって進める話をしているので、ほとんど時間がかからない。もともと検討していたので。
- (委員) 活断層や地盤の説明があったが、阪神大震災のときは、あの中は被害はなしか。
- (組合) なかった。
- (委員) 気になるのは活断層の存在と地権者の数の多さだが。
- (組合) ほとんどが組合員で、組合の意思としてこれをやろうということになっているので、まず問題はない。
- (委員) ごねる人はいないのか。
- (組合) 実際にやってみなければわからないが、まず大丈夫。
- (箕面市) 先日、組合が地権者に説明会をしたが、「国立循環器病研究センター大賛成」という声が寄せられたと聞いている。
- (委員) ドクターヘリの説明のときに、1棟だけ障害になるという気になる話があったが、これについてはどうか。
- (箕面市) 逆に1棟しか考慮すべき建物がないと、われわれは思っている。ヘリポートからの空域の角度が決まっているので、そのときに配慮しなければいけないのが1棟しかないという状況。逆に言えば、ほとんどフリーとご理解いただきたい。
- (委員長) 北大阪急行の延伸は確実に決まっているのか。
- (阪急) 社会資本整備総合交付金制度というものを活用して、来年度に調査をすすめる方向で、進めている。センターが移転したら、われわれとしては事業を早く進めていきたいと思っている。

- (委員) 国立循環器病研究センターが移転しなくても、延伸する予定か。
- (阪急) もちろん時期の問題はあるが、資料にあるように昨年の8月に確認書を締結している。まちづくりをしていくとか、新しい社会資本整備総合交付金を活用して事業を進めるということで、そこについては確認している。センターが移転すれば、当然、もっと前向きに進めていきたいと思っている。
- (箕面市) 社会資本整備総合交付金は国の交付金で、従来の鉄道事業に対する補助金は3分の1しかなかったのが、社会資本整備総合交付金で2分の1に上がり、採算ラインがグッと落ちたので、基本的にはほぼ合意していて、センターがどうあれ、24年度の共同調査の着手と基本設計は決まっている。あとはスケジュール感を、どうするかというところだけである。
- (委員) 隣接する地域にはたくさん住宅地があるが、そういう人たちに対して、ここに大きい病院と研究所が建つことの理解を得るのは簡単とは思えないが。
- (箕面市) 簡単である。きわめて簡単である。船場繊維卸商団地自体が、箕面市の中では唯一商業系の高層ビル群になっている。歴史的にそういうところなので、むしろ国立循環器病研究センターのような施設は喜ばれる。いままでトラックが走り回っていたところなので、周辺の住民に関してはまったく問題がない。たとえばヘリコプターに関しても、国立循環器病研究センターが搬送するヘリコプターも、うちの市の第二総合運動場に降りて、そこから搬送されているので、住民感情に関してはまったく問題がないと確信している。
- (委員) いまの話はバイオハザードとか、そういった問題も大丈夫だという理解でいいのか。
- (箕面市) そうご理解ください。
- (委員長) 連携に関しては、阪大病院や箕面市立病院の話がされたが、医療開発とかイノベーションで、箕面市に何か戦略的な構想はあるのか。

- (箕面市) 現在彩都は、国際総合戦略特区ということで国から認められていて、その中に箕面市エリアも入っている。もともとライフサイエンスの分野には、市として力を入れたいと思っていたし、ここは彩都から少し飛び地にはなるが、一緒。むしろこちらのほうが研究立地も、商業立地も、企業立地も非常に適していると考えているので、市も積極的に進めていきたいと考えている。
- (委員) 市長様の熱い想いは伝わったし、アトラクティブな提案であると理解しているが、1点だけ確認したい。医療イノベーションの拠点づくりに関して気になるのは「市長が代わりました。また違った方向になります」ということ。今年は市長選だと聞いており、懸念している。
- (箕面市) 船場エリアに関しては、もともと物流中心のまちだったが、鉄道が延伸されると、当然そこに人が入ってくることになり、トラックの行き来が非常にしづらくなるので、いまのままでは、同じ性質のままではいられないという前提がもともとあった。市でも、どういう方向でこのまちを転換していこうかというのを、船場卸商団地と一緒に検討してきてる中で、議会も含めて何度も議論が出てコンセンサスを得ているのが知的産業の集積をしようということである。その当時、どちらかという情報通信系の知的集積とか、あとはもう少しクリエイティブな分野とか、「そういうのもできたらいいけどな」ぐらいの議論はされていたが、この分野に特化していこうという話が出てきたのは、まさしく今回の話があって、急速にイメージを固めたというのが実態。8月にセンターから照会があり、ぜひとも検討したいということで手を挙げたわけだが、市、行政側のこの動きに関しては、議会のほうも「それはぜひ頑張り」ということになっている。選挙でたとえば市長の交代があったとしても、基本的にその方向性が変わるとは考えにくいと思っている。
- (国) 国立循環器病研究センターは26年から工事を進めようとしているが、箕面市のプレゼン資料でいくと更地にするのが26年度までかかることになっていて、新築工事にとりかかるのが27年になってしまうのではないかと。また、埋蔵文化財の調査は必要はないのか。もう一つは、仮に購入するとなった場合の価格。平米あたりどれぐらいが予想されるか。
- (箕面市) 路線価から見ると、平米あたり20万円ぐらいになっている。新御堂筋

にかぶりつきのところはもう少し高いが、今回のあたりはそういう状態だと思う。スケジュールだが、工事は解体、整地と資料に両方書いてあるが、解体については一番最初に施工するので、25年度中に十分できると考えている。

議題2（意見交換）

（委員） 正直言ってどれもこれも一長一短だなと思う。やはり大事なのは、ナショナルセンターなのでアカデミア、研究機関との連携。もう一つは国立循環器病研究センターが単科の循環器専門病院なので、必須なことは高度先端医療ができる総合病院との連携で、この2点は非常に重要だと思う。それに付け加えて、世界への顔にならなければいけないので、環境問題とか場所、周りの緑も非常に重要だろうと思う。交通に関しても、いろいろディスカッションがあった。確かに交通の利便が良いほうがいいと思うが、国立循環器病研究センター、ナショナルセンターの性格から考えたときに、機能的な交通がちゃんと確立していれば日常的な利便性は、もちろんあったほうがいいけれども、アカデミア、研究機関との連携、あるいは高度先端総合病院との連携よりは最後のほうだろうという印象を持った。

（委員） 阪大に近いのが一番いいわけで、万博公園の利用が本当にあり得ないのかどうかを検討してもらいたい。吹田市は吹田の都市再開発というか、ショッピングモールとか、華やかなものをつくりたいという発想じゃないかと思う。それだったら、このセンターを建てるのはむしろ好ましくない。

（委員） 産業界という点では、より多くの最先端のアカデミアの方々と組み合わせていただくような環境が一番望ましい。その点からすると、万博公園近辺を吹田市があげてこないのはなぜなのか、理解できない。

（委員長） やはり国立循環器病研究センターのあり方と合致するような場所の選択を最終的な結論で持っていないといけませんが、三市ともそれぞれの自治体を発展させるためだけの提案のようである。

(委員) 医療イノベーションの推進についていろいろと提案が出てくるのではないかと、楽しみにしてきたが、あまり出てこなかった。医療イノベーションにしても、トランスレーションリサーチにしても、やはりアカデミアとどのように連携させるのかというところをしっかりと議論した上で、最終的な場所を決めるという形がよいのではないか。アカデミアとの連携、まずは阪大であり、京大であり、関西圏の大学との連携をお考えいただければと思う。

(橋本総長) いま大変貴重なご意見をいただいた。この前の会のときに、国立循環器病研究センターのミッションと将来構想ということで、「最先端の、その先へ」というかたちで紹介させていただいた。国立循環器病研究センターのミッションと、それを遂行していくためにはどういうことが必要かというフレームワークをご紹介した。国立循環器病研究センターはどうあるべきなのかというと、国立循環器病研究センターの中に産官学連携を入れて、循環器病の予防と克服のために、まさに国際戦略としての基地をつくりたいということである。

もう一つは、国立循環器病研究センター単独でできる話ではないので、ほかとの関連においてどうやっていくか。これは阪大、京大、そして産業界との密接な関連だと思うが、それをエリアとして考えて、そういう戦略を推進していくためのエリアを確保して、連携ができてエリアが良くなれば、国立循環器病研究センターが臨床、研究をやっていく上での立地条件も良くなる。

そういう視点で考えたいということでご紹介したので、いままでのご意見については、私もまさにそのとおりだと思う。いまいろいろな医療イノベーションがどんどん進んでいて、たとえば産学連携についても、大阪大学や京都大学がどんどん進めて、これはもう包括的、組織的連携まで来ています。国立循環器病研究センターの場合はいまの中でそういうことをするための場所もない。言い過ぎかもしれないが、指をくわえて見ているような状況が1年、2年、3年と続いていくと、いくらみんなが頑張ろうと思っても、本当に最先端のところを走れなくなってしまうと危惧している。一つのプロジェクトをやるにしても、プロジェクトがスタートするのは5年後くらいになる。それには、なるべく早い時期から、たとえば外国の企業も連携ということで循環器に来るが、建替問題が結着しないと、具体的な話がなかなか進められないというジレンマがある。確かに、いろいろなことをじっくり考えてやらなければいけない

いということもあり、センターを預かる立場としては拙速であってはいけませんが、可能な限り早く、そういうことをスタートしたい。

そのための場所は、いろいろな複合的な要素を加えた上で、最終的にセンターのミッションを遂行するためにはどこがよいかという視点で決めていくことになるが、すでに昨年、大阪大学、京都大学の医学部長、病院長にセンターにお集まりいただいて、これからどうやって一緒にやっっていくかということも、何回かお話ししています。そういうアカデミアとの連携を重視するというスタンスでやってきている。

(委員) 京都大学や大阪大学の医学部長とか病院長に来ていただいて、意見を聞くことも必要かもしれない。

(委員) 吹田には、せっかくの万博の跡地があり、非常にベターじゃないかと思うが、市の意向は違う。市長自身があそこの開発について相当いろいろ話を進めて、目玉のものが欠けてしまうと、いままでURにある意味では約束していた部分で顔が立たないから、市長がほかを出せる立場にあるのかどうか。だいたい、こういう話は投機家みたいに先走りする者が出てくる。

(委員長) たとえば次回は先ほど言ったアカデミアの意見を述べていただくのと、万博会場の可能性について説明をお願いしたい。

(委員) 操車場の跡というのは、三つの中で、地理的にも地形的にも一番不適切だと思う。それを聞いたら、吹田市から万博跡地が出てくるのではないか。吹田市に聞いてみたらよい。

「それだったら、もうちは結構です」と言って、吹田が要らないと言うのだったらまた別の話で、ほかのところをやったらいんじゃないかという気がするのだが、ほかのことを言わないのは、あそこにこだわっていると思う。おそらく利権的なことがある。そんなことで左右されるのは絶対にいけない。あっちの勝手な話であり、全然考慮する必要はないんじゃないか。先行投資があるかないか、どんな利権が動いているのかどうかという問題は場所決めとは別の話である。

(委員長) 委員が調べるといっても限界があるので、やはり当事者が本当に「ない」と決めているのかどうかというあたりをもう1回聞けないか。

- (事務局) 万博跡地の利害関係者は大阪府や万博協会。委員会で指示をいただければ、お願いすることは可能かもしれない。
- (委員長) その方にいっぺん来ていただいて、われわれが質疑応答することは可能か。
- (オザバー) 私どもでは、わかりかねる。
- (委員長) 万博協会の方は？
- (オザバー) 事務局とも相談させていただく。
- (委員長) 2人に来ていただくのは、いかがか。
- (委員長) 現地建替が可能なのかどうか、まだわれわれは十分理解できていない。スペースが足りないのか。
- (事務局) 前回ご説明したが、11万5000平米の一体の建物を建てようとする、いまの正面右側の駐車場跡地をつぶすか宿舍地をつぶすしかない。どちらも高さ制限や日照の問題と、道路からの50mセットバックというルールがあるので、6万5000㎡又は7万5000㎡ぐらいの平米数しか取りようがなく、センターの構想の11万5000㎡に足りないということである。
- (委員長) 吹田だとクリアできるのか。3万平米。
- (事務局) 箕面もそうだが、高さ制限がないので、その問題はクリアできる。現在地は確かに6万5000㎡あるが、セットバックの問題などで、いまでも約半分の面積3万㎡程度しか利用していないのが現状である。
- (委員長) 万博跡地については、万博協会と大阪府の方に、次回に話を聞いて、それからまた次の議論を進めることでよろしいか。

出席者の発言については、全て本人に確認済みである。